



# The 70th Anniversary

Memorial Higashinada-ku



# 区制70周年記念誌 東灘のあゆみ

Memorial of Higashinada-ku The 70th Anniversary

## 目次

- あいさつ…………… p.2
- 東灘区の歴史…………… p.4
  - 東灘区の誕生…………… p.5
  - 東灘区の現在…………… p.6
  - 年表…………… p.8
- 写真で見る東灘
  - ◆自然・環境…………… p.10
    - 花…………… p.11
    - 山…………… p.12
    - 川…………… p.13
    - 海…………… p.13
  - ◆くらし…………… p.14
    - 御影 住吉…………… p.15
    - 魚崎 本山・岡本…………… p.16
    - 青木・深江 六甲アイランド…………… p.17
  - ◆文化・伝統…………… p.18
    - だんじり…………… p.18
    - うはらまつり…………… p.18
    - 文化…………… p.19
  - ◆芸術・学術…………… p.20
    - 美術館…………… p.21
    - 大学…………… p.22
  - ◆酒・スイーツ…………… p.23
    - 酒…………… p.24
    - スイーツ…………… p.25
- 「レトロな東灘」…………… p.26
- 資料編…………… p.28
- 東灘区あんない地図



# 東灘区が発足

## 市長あいさつ

東灘区が誕生してから70周年の節目を迎えるにあたり、今日まで市政並びに区政に格別のご理解とご協力を賜りました区民の皆さまに厚く御礼申し上げます。

東灘区は、六甲山麓に緑豊かな住宅地が広がり、多くの美術館や史跡、大学が点在する一方、臨海地域では御影郷や魚崎郷といった日本を代表する伝統的な酒造業、食品コンビナートをはじめとする食品産業が集積し、さらにその沖合には、新しい海上都市六甲アイランドがあるなど、自然や文教、住まいをうまく調和し、多様な地域性を併せ持つまちです。また、三宮と大阪の中間部に位置していることから、都市部へのアクセスもよく、交通の利便性にたいへん恵まれた住みやすい環境にあります。

25年前の阪神・淡路大震災においては、東灘区においても多くの尊い命が犠牲となりましたが、区民の皆さまが主体となった取り組みにより、いち早くまちの復興を成し遂げることができました。震災から年月を経て世代交代も進み、直接震災を経験したことのない市民の割合も増す中、当時の経験や教訓を風化させず、今後も次の世代に引き継いでまいります。

また、東灘区制70周年を迎えた令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、瞬く間にそれまでの生活様式が一変しました。学校園の臨時休業をはじめ、市民生活や経済活動は大きな制約を受けることとなりました。これまでのような密集での会議や各種イベントの開催が出来なくなる一方、これまでは決して主流ではなかったテレワークやイベントのリモート実施といった新しい生活様式が人々に認識され、定着するようになりました。

「withコロナ」の時代は当分の間、継続することから、市民の皆さまの生命・健康を守るため、新型コロナウイルス感染症対策を最優先とし、医療・検査・相談体制の確保をはじめ、感染拡大防止のため、全庁挙げて対応にあたっております。

最後になりましたが、次世代の子どもたちにすばらしい神戸のまちを引き継いでいけるよう、そして神戸の未来が明るいものとなるよう、全力を尽くしてまいります。

ひさもと きざう  
神戸市長 久元 喜造

# して70周年

## 区長あいさつ

昭和25年に旧5カ町村（御影町・住吉村・魚崎町・本山村・本庄村）が神戸市と合併したことから、現在の東灘区となり、令和2年10月で区制70周年を迎えました。東灘区が誕生した際には、84,000人に満たなかった人口が、戦後の都市化により急増。阪神・淡路大震災により、一時は人口が落ち込んだものの、その後は共同住宅の整備が進んだこともあり、現在では約214,000人に達しています。

また、東灘区は暮らしやすい住環境にあることから、転入者が多く、全市のなかで子どもや子育て世代の割合が高いのが特徴です。東灘区のイメージとしては、「住宅地が閑静」「交通・通勤が便利」「まちが綺麗でおしゃれ」「六甲山など自然が身近」などのお声をよく耳にしますが、これらのイメージどおり、東灘区は自然があふれ、都会的で洗練されたすてきなまちです。それに加え、酒造業やだんじりなど、伝統・郷土文化が息づく、たいへん情緒のあるまちだということも、東灘区の誇れるところです。

このたびの70周年記念誌の作成にあたっては、東灘区の魅力を未来に残していくため、「レトロな東灘」と題して募集した、区民の皆さまからの古い写真や現在の東灘区の見どころある写真を掲載しています。皆さまには、この記念誌をご覧いただき、東灘区の歴史と歩み、そのなかで育まれたまちの魅力を改めて感じていただけますと幸いです。

新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により、みなさまの生命・健康を守るため、残念ながら60周年時のような協賛行事や記念式典等の催しを今年度は行うことが出来ませんでした。これからも、ずっと住み続けたいくなる素敵なまちとっていただけるまちづくりに区民の皆様とともに取り組んでまいります。

東灘区長 かなや ゆういち  
**金谷 勇一**



## 1. 先史、古代の東灘

東灘の地域からは先土器時代の石器や縄文時代の遺物が発見されており、この辺りは、原始時代から南向きの斜面で水も豊かな生活に適した場所であったことがわかる。

弥生時代に入ると水稻耕作が始まり、粃あとのついた土器や石包丁が出土し、また、渦ヶ森・森北町・生駒・本山南町・北青木からは銅鐸が、保久良神社からは銅戈も出土している。このことは、農耕生活が営まれ、集落を作って生活をしていたことが分かる。また、処女塚・東求女塚・へボソ塚などの古墳がある。集落は原始的なクニになり区の地域は葦屋漢人（あしやのからひと）・大和連（やまとのむらじ）・雀部朝臣（ささべのあそん）・住吉朝臣（すみよしのあそん）・鏡作連（かがみつくりのむらじ）など豪族が支配をしていた。

7世紀の大化の改新の結果、律令国家の下で東灘は摂津国菟原郡に属し、郡家は菟原郡の郡衙（郡役所）が所在した土地と考えられ、菟原郡の中で区域には葦屋（本庄から芦屋）・佐才（魚崎一帯）・住吉（住吉一帯）・覚美（御影一帯）の里（郷）があった。

奈良時代にはいると荘園が出現しはじめ、法隆寺領の水田があり、平安時代には律令制の動揺とともに住吉川流域に山路荘、住吉保などが形成される。

## 2. 中世から近世の東灘

『平家物語』や『源平盛衰記』などの文学作品には近在の名所として処女塚とともに雀の松原・御影の松といった地名が登場し、一の谷の戦いに向かう源範頼の一隊が雀の松原や御影の浜に陣を張ったという。また、鎌倉時代には区域に山道加納荘、得井時枝荘などの荘園も形成されている。南北朝時代の湊川の戦い時には新田義貞が処女塚に立ちよみ、観応の擾乱では打出・御影浜で激しい戦いがあった。

このような戦乱の中、農民たちの結束も固まり郷村ができた。区内では山麓部に東から森・中野・小路・北畑・田辺・岡本・野寄、海岸部では東から深江・青木・西青木、横屋・魚崎、また、区の中央部の道路ぞいに田中といった村々があった。住吉川ぞいに住吉村ができ、その西にあった村々が御影・郡家・西平野・石屋・東明である。

織田信長のあと天下を統一した豊臣秀吉は、検地を行い、天正の頃には東灘はほぼ全域が豊臣家の直轄地となった。

豊臣氏が徳川幕府に滅ぼされると、幕府は東灘を尼崎藩に組み入れ、以後、戸田・青山・松平といった大名たちが尼崎藩主となり、この東灘を支配した。江戸時代には京・大坂と西国を結ぶ街道筋だった東灘の地域では、六甲南腹の急斜面を利用した水車業がさかんで、また、御影石の切り出し・酒造業などで経済が発達した。酒造業は灘の生一本として全国に知られた代表的産業となる。この経済の発展した東灘に幕府は注目し、1769年に明和六年の上ヶ地令を出し、東灘南部の主だった村々を天領にした。

## 3. 近代の東灘

明治維新の中で慶応4年（1868）、東灘の旧天領の村々は兵庫県となり、当初、その他の村々はそのまま尼崎藩などが支配した。明治4年（1871）の廃藩置県で尼崎藩は尼崎県となり、同年11月に尼崎県は兵庫県に吸収された。

明治22年(1889)、市制町村制が施行され、現在の中央区と兵庫区南部を市域に神戸市が成立した時、東灘区の地域には次のように、御影町・住吉村・魚崎村・本庄村・本山村の東灘旧五か町村が誕生した。

- ・御影町・・・近世以来の郡家村・御影村・石屋村・東明村が合併(西平野村は明治8年(1875)に灘区の高羽村と合併していたが、昭和4年(1929)に改めて御影町と合併)。
- ・住吉村・・・もともと非常に大きな村のため、単独で一行政村を組織する。
- ・魚崎村・・・近世以来の魚崎村・横屋村が合併(大正3年(1914)に町制が施行され魚崎町に)。
- ・本庄村・・・近世以来の深江村・青木村・西青木村が合併し、旧荘園名にちなみ「本庄」と名付ける。
- ・本山村・・・近世以来の森・中野・小路・北畑・田辺(旧本庄の村々)の各村と岡本・野寄・田中(旧山路荘の村々)が一体となり、「本庄」と「山路」の頭文字をとり「本山」と名付ける。

その間、明治7年(1874)には、神戸・大阪間に鉄道が開通し住吉駅が設けられ、それまでは1日がかかりだった神戸や大阪間と片道1時間以内で結ばれることとなった。その後、近代化に伴う交通機関の発達で、明治38年(1905)に阪神電気鉄道が開業した。また、明治20年(1887)から40年(1907)にかけて灘地域海岸部の道路建設も進んだ。明治42年(1909)その道路を日本最初のマラソン大会走者が駆けぬけた。湊川新開地から淀川までの競争でマラソンやオリンピックへの関心を高めたが、くしくもこの年に御影出身の嘉納治五郎が、東洋人として初めて国際オリンピック委員会委員に就任している。その後、大正9年(1920)には阪神急行電鉄も開通し、東灘は大阪・神戸の郊外住宅地として発展していった。

昭和13年(1938)の阪神大水害、昭和20年(1945)の大空襲で大きな損害を被ったこの地域も町の復興で戦後が始まった。

II	<b>Birth</b> <b>東灘区の誕生</b>
----	-------------------------------

明治22年4月に成立していた御影町、住吉村、魚崎村(大正3年魚崎町となる)、本庄村、本山村は、戦後復興を計るなかで神戸市との合併問題が表面化して、それぞれの町村で論争がおこった。

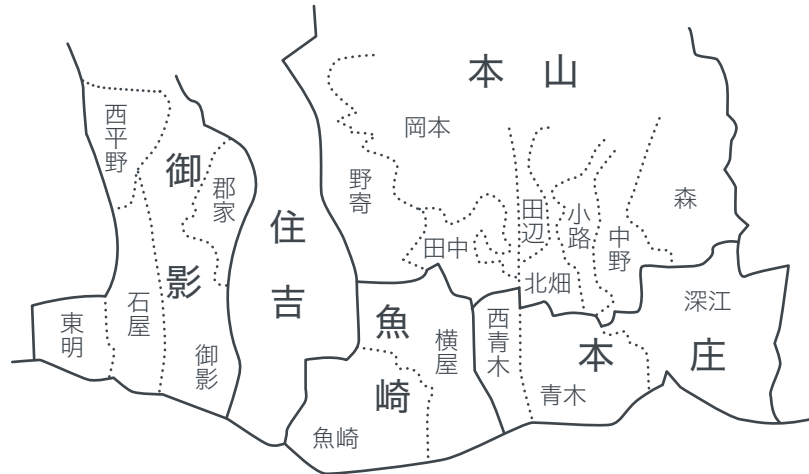
昭和23年、神戸市は五か町村に対して正式に合併を申し入れたが、その後、芦屋市も同様に合併を申し入れた。区の東部では芦屋市との合併賛成派がある一方、御影町、魚崎町は神戸市との合併に積極的であり、戦前は裕福で独立心の強かった住吉村も合併を考え始めていた。しかし、神戸市との合併により地域の主体性がなくなることを心配した住民の中には、五か町村が一つの新しい市(甲南市あるいは灘市)をつくるという構想も生まれ、一時はこれに芦屋市も加わる様子を見せ、問題は複雑化した。

結局、昭和25年4月1日、御影、住吉、魚崎の三か町村が神戸市と合併することとなり、ここに東灘区が誕生したのである。

ところが、新しい区の名称について論争がおこり、三か町村はこのあたりが本来「灘」の中央部であることから「灘区」にすべきであると主張したが、すでに西隣りに「神戸市灘区」があることから問題となった。そこで、この「灘区」を「西灘区」とし、こちらを「灘区」にすべきであるという意見が飛び出し、また、こちらを

「本灘区」にせよという意見まで出た。最後に神戸市長一任ということになり、「灘区」の東ということから「東灘区」に決定した。

残る本庄、本山の両村でも、住民投票やリコール運動の末、昭和25年10月10日、神戸市と合併が実現し、現在の東灘区の区域が成立したのである。そのときの人口は83,937人であった。



江戸時代の村(むら)々と明治22年からの五か町村(ちょう・そん)

……は江戸時代以来の村境、——は1889年以降の行政町村界  
[西平野は昭和4年(1929)に御影町に合併]

III	<b>Nowadays</b> <b>東灘区の現在</b>
-----	----------------------------------

東灘区は、海と山に挟まれた環境と三宮まで10分、梅田まで20分というアクセスの良さが好まれ、関西有数の住宅地として発展してきた。

区南部には、日本を代表する酒どころ灘五郷のうち、御影郷・魚崎郷があり、現在も酒造メーカーの工場が立ち並ぶ酒造地帯には独特の情緒が感じられる。昔ながらの木造の酒蔵は少なくなったが、酒造りの様子が分かる各酒造会社の資料館があり、熱心に酒蔵を巡る人の姿も見られる。

一方、区内には大学が点在しており、阪急岡本駅、JR摂津本山駅を中心に学生が集まる若者の街として、お洒落なカフェや雑貨店が賑わっている。

平成5年(1993)に完成した六甲アイランドは、港湾、産業、住宅、商業、文化・レクリエーションなどの施設



が計画的に配置された新しい海上文化都市である。17,000人の住民の中には外資系企業の進出や多くの外国人もあって、島内のお店には外国語の標記が見られ、日常生活のなかに国際的な雰囲気を感じられる。

平成7年(1995)1月17日、兵庫県南部はマグニチュード7.2の大地震に見舞われ、東灘区は、震度7の激震が記録され、家屋の



約半数が全半壊となり、1,470名の方が亡くなるなど最も被害の大きい地域であった。しかし、復興に向けた地域の取り組みが進み、マンションの新築などが相次いだ。

東灘区には、若く子育て世代の転入者が多く、区内の年間出生者数は約1,700人であり、多子高齢化という状況が続いている。区内居住者の7割がマンション住まいであり、震災を知らない区民が全住民の5割を占めるようになってきた。

一方、東灘は情緒あふれる下町としての顔、臨海工業地域としての顔、だんじりをはじめとした伝統文化の生きる街など様々な顔をもっている。また、区内には、6つの美術館、6つの大学がある文化・芸術・教育の街でもある。

昭和25年（1950）10月に現在の東灘区ができ、平成22年（2010）には区制60周年の記念にだんじりの巡行をはじめさまざまな記念行事が行われた。

以後この10年の間に神戸市の人口は平成22年の154.4万人をピークに減少に転じ、令和2年3月末に1,529,092人となった。65歳以上の高齢者人口は28.2%と高齢化が進んでいる。東灘区に関しては震災前の平成7年（1995）1月の191,716人が震災後の同年10月の国勢調査では157,599人と減少していたが、以後着実に復興して平成12年11月には191,791人と震災前を上回り、令和2年（2020）には213,692人になり、65歳以上の割合は24.5%で、全市と比較して主に若い住民を中心に区民が増えている状況である。

この間、中高層の集合住宅が増えた。交通の面では平成4年3月から阪神電気鉄道本線の高架化が進められ、令和元年（2019）11月末には住吉駅から芦屋市境までの全線が高架になった。青木と深江駅が高架駅となり、渋滞や事故の緩和が実現した。

文化・教育の面では、昭和49年（1974）に岡本1丁目の旧本山村役場跡に開設された東灘図書館が老朽化とバリアフリーへの対応のため、平成25年（2013）9月に住吉東町に移転開館した。「おはなしの部屋」が備えられ、市内初のICタグによる自動貸し出し機能をもつ図書館となった。また、大学と地域との協力を目指して、平成18年（2006）から区は区内の6大学—甲南・甲南女子・神戸国際・神戸薬科・頌栄短期・神戸（海事科学研究科）—と連携協定を締結した。さらに平成31年度（2019）からは御影高校・六甲アイランド高校など区内の高校とも同様の協定締結を始めた。

昭和8年（1933）建築の御影公会堂は貴重なアールデコ様式の建物で、阪神大水害・神戸空襲・阪神・淡路大震災にも耐えた文化遺産として、平成30年（2018）に国の登録文化財となった。その直前に耐震補強工事や諸設備も改修され、嘉納治五郎記念コーナーも備えられて一層の活用が期待される。

銘酒灘の生一本醸造の中心地としての東灘区は、今も御影郷と魚崎郷に12社がある。平成26年（2014）に神戸市は「神戸灘の酒による乾杯を推進する条例」を施行していたが、令和元年（2019）に灘の生一本は伊丹諸白とともに日本遺産に認定され、一帯は日本の食文化の地として注目されている。同時に日本の洋菓子文化の中心である神戸の中で、東灘区内にはバレンタインのチョコレートを年中行事化させたメーカーもあって、平成23年度（2011）からは「ひがしなだスイーツ」めぐりなども始まった。平成25年（2013）に阪神御影駅南に完成したバレンタイン広場はその象徴である。

こうして東灘区は震災後の復興からさらに新たな発展を始めた。区制70周年は新型コロナウイルス禍で、60周年の時のような過密な行事はひかえながら、東灘区は今、伝統と新進の街として未来に向かって歩み始めている。



〈園田学園女子大学名誉教授 田辺 真人〉

## 東灘区 年表



慶応3年	(1868)	1月	兵庫港(現神戸港)開港
明治4年	(1871)	7月	日本最初の鉄道トンネルとして石屋川トンネルが完成、その後住吉川トンネルも完成
明治7年	(1874)	5月	神戸～大阪間に鉄道開設(今のJR:住吉駅設置)
明治22年	(1889)	4月	市制・町村制が実施され神戸市が誕生。東灘の地域に本庄村、住吉村、魚崎村、御影町、本山村も誕生
明治38年	(1905)	4月	阪神電鉄が大阪～三宮まで開通
明治41年	(1908)		東灘の家に電灯がつき始める
大正3年	(1914)	5月	魚崎村が魚崎町になる
大正6年	(1917)	9月	私立川崎商船学校(神戸商船大学の前身)開校
大正9年	(1920)	7月	阪急電鉄が大阪～上筒井まで開通(岡本・御影駅開業)
大正10年	(1921)	5月	灘購買組合設立(後の灘神戸生活協同組合、現生活協同組合コープ神戸)
大正11年	(1922)	3月	処女塚古墳が国指定記念物(史跡)に指定される
		10月	旧住吉村役場完成
大正13年	(1924)	12月	旧御影町役場完成
			深江文化村が形成される
昭和元年	(1926)	6月	阪神国道(2号線)竣工
昭和2年	(1927)	7月	阪神国道電軌東神戸・野田間開通
			旧本山村役場完成
昭和3年	(1928)	12月	甲南火葬場(甲南斎条の前身)完成
昭和4年	(1929)	8月	旧本庄村役場完成
			倚松庵完成(平成2年現在地に移築)
昭和6年	(1931)	9月	神戸市に区制施行(灘・葺合・神戸・湊東・湊・兵庫・林田・須磨の各区が発足)
昭和8年	(1933)	5月	御影公会堂会館
昭和9年	(1934)	6月	渦ヶ森より銅鐸発見(現在東京国立博物館所蔵)
昭和10年	(1935)	6月	住吉浄水場完成
		12月	JR摂津本山駅開業
昭和12年	(1937)	10月	旧魚崎町役場完成
昭和13年	(1938)	7月	阪神大洪水(住吉川など大洪水、被害大)
昭和14年	(1939)	10月	神戸市の人口100万人突破
昭和20年	(1945)		5/11・6/5・8/6神戸大空襲、東灘の大半が焼失
昭和25年	(1950)	4月	御影町、住吉村、魚崎町が神戸市に合併(東灘区発足)
			旧御影町役場を東灘区役所にする
		10月	本庄村、本山村が神戸市に合併(現東灘区となる)
昭和30年	(1955)	10月	区役所を御影から住吉へ移転、区内の出張所廃止
昭和36年	(1961)		天神山、渦ヶ森の造成開始(のちの御影山手、渦森台)
昭和43年	(1968)	11月	東灘区旧総合庁舎完成(住吉東町2丁目)
昭和44年	(1969)		東部卸売市場(後の中央卸売市場東部市場)開設
昭和47年	(1972)		六甲アイランド埋立て開始(平成4年完工)
昭和49年	(1974)	10月	住吉川河中道路を「清流の道」として開放
昭和50年	(1975)		保久良梅林完成
昭和57年	(1982)		岡本公園(岡本梅林公園)開園
昭和61年	(1986)	12月	東灘区の花「梅」に決まる
昭和63年	(1988)		六甲アイランドへ入居始まる
平成2年	(1990)	7月	六甲ライナー開業、JR住吉駅に快速が停車
平成4年	(1992)	8月	東灘区民センター(うはらホール)開館
		11月	小磯記念美術館オープン
平成7年	(1995)	1月	阪神・淡路大震災



- 平成8年 (1996) 3月 震災で倒壊した酒蔵資料館順次再建(浜福鶴吟醸工房、白鶴酒造資料館、甲南漬資料館、蔵元倶楽部酒匠館、神戸酒心館、櫻正宗記念館櫻宴、菊正宗酒造記念館)
- 10月 JR甲南山手駅開業
- 平成9年 (1997) 4月 神戸ファッション美術館オープン
- 9月 森南第一地区震災復興土地区画整理事業着手
- 12月 六甲アイランド南地区の公有水面埋立免許を取得  
港湾幹線道路(ハーバーハイウェイ)住吉浜渡り線開通
- 平成10年 (1998) 3月 森南第二地区震災復興土地区画整理事業着手  
水上消防署六甲アイランド出張所新庁舎業務開始
- 4月 六甲アイランド高等学校開校
- 平成11年 (1999) 3月 東灘区安全まちづくり計画策定
- 4月 東灘下水処理場災害復旧工事完成、通水開始
- 11月 森南第三地区震災復興土地区画整理事業着手  
東灘区内の応急仮設住宅の全てを閉鎖
- 平成12年 (2000) 1月 現東灘消防署新築移転
- 2月 現東灘区役所新築移転(住吉東町5丁目)
- 4月 東灘クリーンセンター(魚崎浜)供用開始
- 9月 「葦屋駅家」関連遺跡を発見(深江北町遺跡)
- 10月 人口19万人を突破し、平成2年当時の人口を超える(国勢調査)
- 11月 サンシャインワーフ神戸オープン
- 平成13年 (2001) 4月 神戸ファッションマートに「SOHOプラザ/KFM」を開設
- 平成14年 (2002) 3月 区役所に「子育て支援室」を設置
- 平成15年 (2003) 2月 森南第一地区・森南第二地区震災復興土地区画整理事業完了
- 3月 大容量送水管整備事業(森南町～西岡本間)完成
- 10月 第1回神戸東灘アートマンス開催
- 平成16年 (2004) 8月 戸籍事務のコンピュータ化処理を導入
- 平成17年 (2005) 1月 くるくるバスが住吉台に運行
- 3月 森南第三地区震災復興土地区画整理事業が完了
- 6月 区中期計画策定
- 7月 六甲アイランドに屋外プール、フットサルコートを備えた「デカバトス」がオープン
- 10月 人口20万人を超える(国勢調査)
- 平成19年 (2007) 3月 青木不発弾処理  
神戸ゆかりの美術館オープン
- 7月 JR住吉駅に諸証明自動交付機が稼働
- 平成20年 (2008) 2月 神戸バイオガステーション完成
- 平成21年 (2009) 2月 旧乾邸 神戸市指定有形文化財に指定
- 平成22年 (2010) 10月 東灘区制60周年
- 平成23年 (2011) 10月 ひがしなだスイーツめぐり開始
- 平成25年 (2013) 6月 大学・高校連携協定締結開始
- 9月 東灘図書館が現在地に移転
- 平成26年 (2014) 11月 「神戸灘の酒による乾杯を推進する条例」施行
- 平成30年 (2018) 5月 御影公会堂 国の登録有形文化財に登録
- 令和元年 (2019) 11月 阪神本線の区内高架切替実施
- 令和2年 (2020) 6月 灘の生一本が日本遺産に認定
- 10月 東灘区制70周年







岡本梅林公園

東灘区は六甲山を背に眼下には瀬戸内海を望む風光明媚なまちです。南北には清流「住吉川」が流れており、夏には子どもたちが水遊びをして楽しんでいます。市街地にも緑があふれ、四季折々に多様な花を愛でることができます。

また、区の花にもなっている梅の季節には、区内の公園などで花と香りを楽しむことができ、「保久良夢ひろば」では、植物や昆虫などの生物に触れ合うことが出来るなど、身近に自然に触れられる環境です。

東灘区の花『梅』のシンボルマーク



上の緑は山(六甲山)を、下の青は海を表し、山と海に囲まれた東灘区の豊かな自然環境をデザイン化しています。そして、山麓部には梅が表現化され、山と海の境の白抜き部分は港町神戸のシンボル・かもめをイメージしています。(製作:デザイナー田中徳喜氏 行動美術協会会員)



# 花

Flower

区の花である梅をはじめ、桜・アーモンド・薔薇といった花が  
まちの四季を彩ります。



住吉川の桜



アーモンド並木



岡本南公園の桜





東灘区は、六甲山や瀬戸内海に囲まれ、市街地を離れハイキングに出かければ、眼下に広がる海を眺め、ひと時の憩いの場所へと誘ってくれます。

また、保久良山は梅の香りあふれる登山道として多くの人に親しまれています。



保久良神社



保久良夢ひろばへの道



# 川

River

区内には住吉川・要玄寺川・石屋川といった川が流れ、豊かな水量に恵まれ市内随一の清らかな住吉川では、子どもたちの楽しげな歓声が聞こえてきます。



住吉川上流



住吉川で水鉄砲で遊ぶ子どもたち



住吉川河口

東灘区の南側には大阪湾が広がっています。海岸沿いには日本有数の酒造メーカーや工場等の臨海工業地帯、さらに沖合には海上文化都市である六甲アイランドが臨まれます。

# 海

Sea



六甲アイランドを臨む



臨海工業地帯



阪神御影駅 バレンタイン広場

神戸市の東の端に位置する東灘区ですが、神戸の中心地三宮まで10分、また大阪まで20分と便利で住みよいまちとして人気があります。阪神・淡路大震災後、まちの復興は進み、高層マンションが建ち並び、まちの風景も大きく変貌を遂げました。また、昔ながらの店舗に加え、新しい商業施設も充実しています。



## 御影

花崗岩の別名である「御影石」の名前の由来になった場所で、南部には「灘五郷」の一つ「御影郷」があります。香雪美術館や世良美術館などの美術館があるほか、石屋川沿いには、昭和8年に建設され、水害・戦災・震災も耐え抜いた御影公会堂があります。



神戸酒心館



沢の井



御影公会堂

## 住吉

JR住吉駅周辺には区役所や図書館など多くの公共施設があります。又、清流住吉川が流れ、川沿いの「清流の道」では散歩やジョギングを楽しんでいる方も多くみられます。他にも倚松庵や旧乾邸など明治から昭和にかけて移り住んだ文化人や富豪の邸宅もあり、歴史的文化を感じられるまちです。



山田区民会館横の復元水車



住吉川



## 魚崎

「灘五郷」の一つ「魚崎郷」があります。酒蔵の道には昔ながらの酒蔵の外観を取り入れたお店や酒蔵が建ち並んでいます。マンションが多く、子どもも多い活気があるまちです。住吉川公園周辺は梅の木が植樹されており、美しい花を咲かせています。



魚崎駅前市民花壇



東水環境センターのアーモンド並木

## 本山・岡本

阪急岡本駅からJR摂津本山駅までの岡本商店街には石畳が敷かれ、おしゃれなカフェやスイーツ店が多く建ち並んでいます。

周辺には3つの大学が立地しており、学生が多く賑わいのある街です。

また、「梅は岡本、桜は吉野…」と言われ、古くから梅の名所としても知られています。



岡本梅林公園



朱鳥居



岡本商店街

## 青木・深江

南部は梅が近くで見晴らしが良く、自然が豊かです。マンションが多く、サンシャインワープなどの商業施設もあり、ファミリーに人気のまち。また、伝統・歴史文化が息づくまちでもあり、大日霊女神社があります。



サンシャインワープ



大日霊女神社

## 六甲 アイランド

まちびらきから30年を迎えた人口島。街は近代的な建物、多くの屋外彫刻、四季折々の花木があり、夜はリバーモールがライトアップされます。また、多種のスポーツ施設、3つの美術館、インターナショナルな学校や施設もあり、多様性に富んだ街です。



六甲ライナー アイランドセンター駅付近



マリナーパーク



ファッション美術館



写真で見る  
東灘

# 文化・伝統

Photo Tour



東灘区にはだんじりなど伝統文化や、御影公会堂などのモダニズム文化を漂わせる歴史的建造物などが残っています。だんじりは春の風物詩で、毎年5月には各地区の趣向を凝らしただんじりが区内を練り歩きます。又、御影公会堂やうはらホール等では様々なイベントやコンサートが開催されています。

## だんじり

東灘区の春の風物詩「だんじり」。毎年5月には区内の各地区のだんじりが巡行し、まちのおりはお祭り大好き人間であふれます。



## うはらまつり

毎年、5月に神戸まつりの各区のまつりとして「うはらまつり」は住吉公園にて開催されています。楽しいステージや模擬店が皆様の来場を待っています。





東灘区制70周年記念事業である、だんじりの魅力をより多くの方々へ発信し、その文化を継承するための「だんじり等東灘の歴史・伝統文化発信施設」を、住吉幼稚園跡地(東灘区住吉宮町7丁目)に設置することについて、令和3年3月に実施事業者の公募を行い、優先交渉権者として一般財団法人住吉学園を選定しました(令和5年11月頃開業予定)。



※「だんじり等東灘の歴史・伝統文化発信施設」パースはイメージになります。実際とは異なる場合があります。

## 文化

まちなかには人々の暮らしと密接に結びつき、延々と引き継がれてきた歴史があります。



御影公会堂



嘉納治五郎像



旧乾邸



倚松庵



大学生インターンのようす

東灘区は多数の美術館や大学などの教育機関が立地する文教のまちです。10月から11月には「神戸東灘アートマンス」を開催し、区内6つの美術館をめぐるスタンプラリーや美術館でのコンサートなどが楽しめます。また、大学では一般の方も参加できる公開講座やイベントをそれぞれ実施しています。



### 区民の知恵処「東灘図書館」

平成25年9月に岡本町から住吉東町に移転した東灘図書館は、市内で初めてICタグを貸出に導入したり、「東灘コーナー」も設置され、地域に関する本や資料が置かれています。



# 美術館

山の手の高台から六甲アイランドまでに公私立合わせて6つの美術館があり、それぞれ個性あふれる展示等がされ、区民はもちろん多くの方々の目を楽しませてくれます。



神戸ゆかりの美術館



神戸ファッション美術館



小磯記念美術館



香雪美術館



白鶴美術館



世良美術館



# 大学

キャンパス付近では若者たちの賑やかな声が広がります。大学の他には全国的にも有名な灘中・灘高等学校、甲南女子高校等の私立学校、カネディアン・アカデミー等の国際色豊かな各種学校もあります。



神戸国際大学



頌栄短期大学



神戸薬科大学



神戸大学



甲南大学



甲南女子大学

広く開放された大学へ区民を誘導し、大学の持つ有益な情報や施策を多くの区民が利用できる仕組みをつくり、地域に根差した「地域の学び舎」となることを目指し、平成18年度から区内の6大学との連携協定の締結を進め、定期的な情報交換や市民向けの講座情報の発信、こども向け体験型スクール等を実施しています。



酒蔵のようす

東灘区には全国でも珍しいほど多くのスイーツ店が集まっています。秋にはスイーツめぐりが開催されます。また、区南部に日本一の生産量を誇る酒どころ「灘五郷」のうち「御影郷」と「魚崎郷」があり、酒造業をはじめ、食品産業の工場が多く集まっています。









## スイーツ

東灘区には、伝統的な和菓子の文化に加え、明治時代から発展した洋菓子の歴史及び文化が根付いており、まちの魅力の一つとなっています。

東灘の独自性を象徴する「ひがしなだスイーツ」をキーワードに、①「ひがしなだスイーツ」の歴史と文化に関して区民の理解を深め、区民の地域への誇りと愛着を醸成する、②区民が創意工夫して「ひがしなだスイーツ」を盛り上げようとする取り組みを奨励し、その活動を区域を越えて発信することにより地域を活性化させる、③地場産業の振興を図るとともに、「ひがしなだスイーツ」を観光資源の一つとして育成する、という3点に重点を置き、活力に満ちた町の創造を目指す取り組みを行っています。



# レトロな 東灘

区制70周年記念事業として、令和2年5月7日から令和2年6月30日まで、未来に残したい東灘の風景や当時の生活が分かるような「東灘の思い出の一枚」の募集を行いました。

皆様のご協力により多くの貴重な写真が集まりましたが、そのうちの一部をここにご紹介します。

## 写真に関するデータ

①撮影時期 ②撮影場所 ③撮影者 ④提供者

### 【本庄小学校】



①昭和初頭(1930)前後  
②武庫郡本庄尋常小学校初代校舎  
③辻川 松次様 ④ニコルソン 峰子様

### 【だんじり】



①おそらく昭和7～8年頃(1932～1933)  
②不明(青木町内) ③辻川 松次様(の依頼者様)  
④ニコルソン 峰子様

### 【阪神電鉄 踏切】



①昭和30年代後半(1960年代前半)  
②北青木2丁目6番12号辺りの本山本庄線通りから見る南方面 ③辻川 光夫様 ④ニコルソン 峰子様

### 【六甲山を背に歩く母と姉】



①昭和33年(1958)から34年(1959)にかけての冬頃  
②本山本庄線通り(小寄公園北側から国道2号線手前までの辺り)  
③辻川 光夫様 ④ニコルソン 峰子様

### 【旧ヘルマン屋敷】



①昭和42年(1967)11月頃  
②西岡本 旧ヘルマン屋敷前  
③野里 秀一様  
④金子 隆子様



【酒蔵の風景】



①昭和35年(1960)後半または昭和45年(1970)前半 ②御影石町1丁目辺り ③個人 ④個人

【象のパレード】

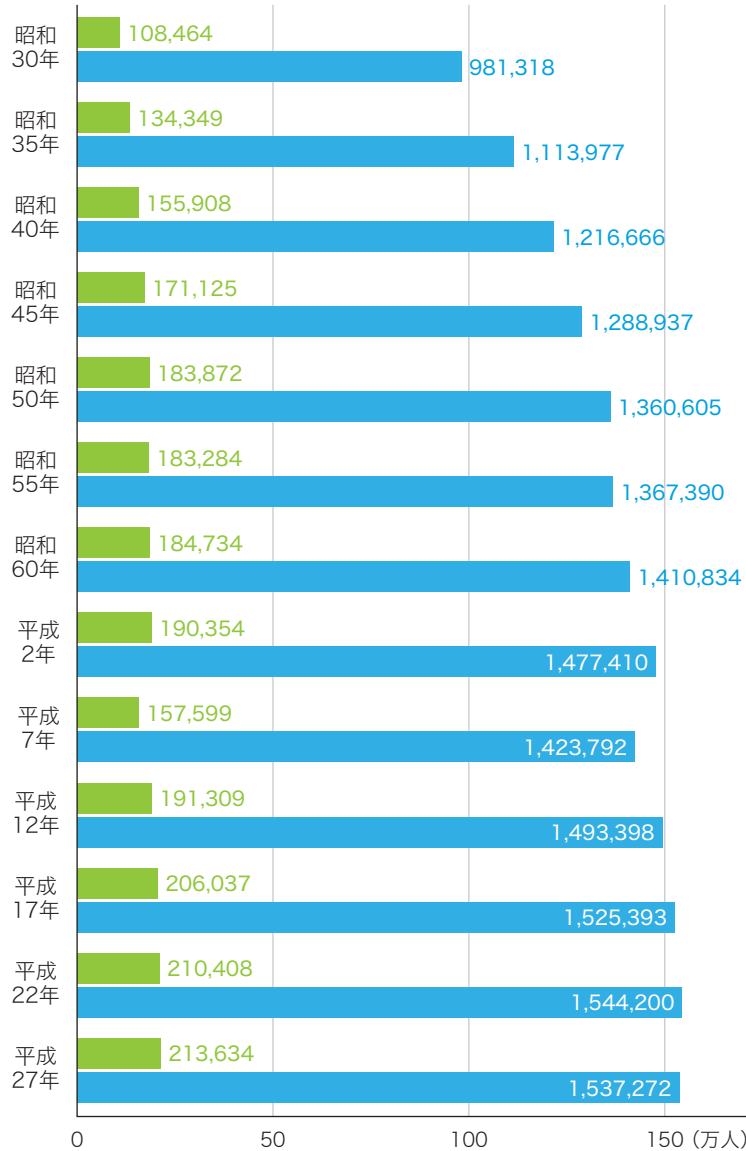


①昭和45年(1970)8月  
②国道2号線 田中の交差点手前(左) 甲南市場・三井住友銀行(神戸銀行)前(右)  
③栗野 昭子様 ④栗野 奈緒美様

## ◆人口推移

国勢調査人口推移(各年10月1日現在)

■東灘区 ■全市



## ◆国籍・地域別外国人住民数

(単位:人) 平成31年3月31日現在

国名	神戸市	東灘区
韓国又は朝鮮	16,714	1,373
中国	13,187	1,295
ベトナム	6,978	893
台湾	1,345	154
フィリピン	1,305	243
米国	1,225	322
インド	966	47
ネパール	900	374
ブラジル	407	151
インドネシア	369	65
英国	363	70
タイ	284	36
カナダ	240	69
オーストラリア	233	62
フランス	191	50
ミャンマー	187	25
ペルー	182	76
パキスタン	167	32
スリランカ	157	74
ドイツ	155	44
その他	2,200	459
無国籍	47	8
合計	47,802	5,922

## ◆鉄道区内各駅の乗車人数(平成30年度)

(単位:1,000人)

## JR西日本

駅名	乗車人数
住吉	13,083
摂津本山	8,274
甲南山手	4,222

## 阪急電鉄

駅名	乗車人数
御影	3,892
岡本	6,977

## 阪神電気鉄道

駅名	乗車人数
石屋川	1,276
御影	5,013
住吉	552
魚崎	5,371
青木	2,799
深江	3,322

## 神戸新交通(六甲アイランド線)

駅名	乗車人数
住吉	4,927
魚崎	2,073
南魚崎(酒蔵の道)	331
アイランド北口	1,551
アイランドセンター	3,434
マリナーパーク	1,298



◆町名(現在の町名・旧町字)

住吉

現在の町名	旧町字
鴨子ヶ原 1～3丁目	住吉鴨子ヶ原町1～3丁目
住吉山手 1～9丁目	○住吉町 赤塚山、池床、井手口、渦森、 牛神東、落合、川向、観音林、九重ヶ坂、 荒神山、小坂山、小林、手崎、堂ノ本、鍋島、 縄手下、松本、丸山、焼ヶ原、安場、山下、大谷 ○住吉鴨子ヶ原町1～3丁目
住吉台	○住吉町 落合、荒神山、大谷
住吉宮町 1～7丁目	○住吉町 泉、唐松、茶屋、宮西、宮東、求女、吉田
住吉東町 1～5丁目	○住吉町 瀬川、鬼塚、古新田、道ノ下、反高林
住吉南町 1～5丁目	○住吉町 呉田、新兵衛新田、浜新田
渦森台 1～4丁目	渦森台1～4丁目
住吉本町 1～3丁目	○住吉町 雨ノ神、牛神、牛神東、牛神前、小原田、垣内、 垣添、観音林、九郎左衛門新田、小坂山、 新堂、反高林、堂ノ本、中島、古寺、坊ヶ塚、 宮守堂、堂ノ内
住吉浜町	—

魚崎

現在の町名	旧町字
魚崎北町 1～8丁目	○魚崎町
魚崎中町 1～4丁目	魚崎、横屋
魚崎西町 1～4丁目	○魚崎町魚崎
魚崎南町 1～8丁目	○魚崎町 魚崎、横屋
甲南町 1～5丁目	○魚崎町魚崎 ○本山町野寄 ○本山町田中字平田 浦、田中番地
魚崎浜町	—

御影

現在の町名	旧町字
御影石町 1～4丁目	○御影町石屋字 旭詰、磯辺、喜寅、公方公、御量、左美也、辰巳
御影塚町 1～4丁目	○御影町東明字 乙女塚、那古浦
御影中町 1～8丁目	○御影町御影字 一里塚、掛田、申御田、但馬口、柳
御影本町 1～8丁目	○御影町御影字 上中、上西、上東、上弓場、沢の井、浜中、浜西、 浜東、浜弓場、柳
御影山手 1～6丁目	○御影町郡家 西平野、御影 ○住吉町鍋島○灘区土山町
御影 1～3丁目	○御影町石屋字 朝后、イカツカ、八色岡 ○御影町郡家字上山田 ○御影町西平野字 伊賀塚、一ノ坪、大原、ケジメ、西松本、 東松本、平野 ○御影町御影字 上ノ山、榎本、岸本、篠坪、城ノ前、滝ヶ鼻、平野
御影郡家 1～2丁目	○御影町郡家字 石野、大蔵、垣内、上山田、庄田、庄ノ元、 地藏元、村田、千本田、寺ノ前、堂ノ裏、 堂ノ前、馬場添、宮ノ浦 ○御影町御影字 城ノ前、弓弦羽ノ森
御影浜町	—

## 本山

現在の町名	旧町字
岡本 1～9丁目	○本山町岡本字 野間、古川、篠久保、中島、梅林、梅ノ谷、栄田、 宝蔵、長子、高井、庄屋、馬田、釈迦田、 マンパイ、ハゲ山 ○本山町田辺字西良崎 ○本山町田中字馬田
田中町 1～5丁目	○本山町岡本番地 ○本山町野寄 ○本山町田中番地
西岡本 1～7丁目	○本山町岡本 1203番地、字高井、十文字山 ○本山町野寄字 大日ノ本、大山田、手崎、西大山田、西坂口、 東坂口、畑ヶ田、平林、吹上、仏天垣、屋敷本、 山田 ○本山町野寄
本山北町 1～6丁目	○本山町北畑字 宮の前、北畑番地 ○本山町田辺字西良崎 ○本山町中野字 靱取、中野番地 ○本山町小路字 谷山、箱木原小路番地 ○本山町森字 坂下町、西ノ町、森番地
本山中町 1～4丁目	○本山町北畑字 保久良、柳町 ○本山町田辺字 清水通、田井 ○本山町中野字 門田、御前、千田、靱取、中野番地 ○本山町小路字 井戸田、竹乃前 ○本山町森字 坂下町、西ノ町、森番地
本山南町 1～9丁目	○本山町北畑字 半田、芦原、神田、小奇 ○本山町中野字 琴田筋、戸田筋、平田筋 ○本山町小路字 一ノ坪、大町、深田 ○本山町田中字平田 ○本庄町青木戸浪町 ○本庄町西青木 福池町、前田町
森北町 1～7丁目	○本山町森字 神岡町、北ノ町、坂下町、天神町、西ノ町、 東ノ町、村上町、山田町、庄野町、東山、鉄道前
森南町 1～3丁目	○本山町森字 今北、昭和通、丈土、古川、前ノ町、宮川
甲南台	○甲南台
本山町岡本、 北畑、田中、 田辺、中野、 野寄、森	—

## 本庄

現在の町名	旧町字
青木 1～6丁目	○本庄町青木 竹本町、中浜町、東浜町、文教町、松本町 ○本庄町西青木 梅本町、西浜町
北青木 1～4丁目	○本庄町深江高橋町 ○本庄町青木 大倉町、古堂町、寺門町 ○本庄町西青木 垣ノ内町、本町、前田町
深江北町 1～5丁目	○本庄町深江 稲荷筋2～4丁目、栄通2～4丁目、高橋町、 永井町3・4丁目、繁昌町2～4丁目、 札場通2～4丁目、薬王寺2・4丁目
深江本町 1～4丁目	○本庄町深江 踊松町、大日町、長栄町、永江町
深江南町 1～5丁目	○本庄町深江 磯島町、神楽町、東町、見附町
本庄町 1～3丁目	○本庄町深江 札場通1丁目、薬王寺1・2丁目
深江浜町	—

## 六甲アイランド

現在の町名	旧町字
向洋町中 1～9丁目	—
向洋町西 1～6丁目	—
向洋町東 1～4丁目	—

## 参考文献

- 「東灘歴史散歩（新訂第2版）」  
田辺 真人 平成10年
- 「区制50周年記念誌 東灘のあゆみ」  
田辺 真人 平成12年



## ◆町名の由来

### 魚崎 (北町・中町・西町・浜町・南町)

住吉川河口の砂州だった魚崎は、伝説では神功皇后の九州遠征に際して、軍船500隻の集結地だったとか、応神天皇のころ、ここで500籠の塩を焼き作ったことから、五百崎と名がつき、後に豊漁を願って五百を魚の字に代えて、魚崎となったという。実際は漁業のさかんな岬だったのだろう。中世半ばからの地名。

### 渦森台

旧住吉村内の渦森山の山上部の土砂を埋立用に搬出したあとに開かれた住宅地。

### 青木・北青木

保久良神社の祭神が海のかなたから青い海亀に乗って来られたので、上陸地に青亀の名がつき、「亀」の字が木に改められて「あおき」が訛って「おうぎ」になったという。実際は青々と松林が連なっていたのだろう。戦国時代に村名として現われる。

### 岡本・西岡本

一般に山地の麓につく地名。打越山の岡の麓か。戦国時代から集落名として続き、近世以来、梅の名所として名高かった。

### 鴨子ケ原

渦森山の麓。旧住吉村の字加茂があり、『住吉村誌』は、もと豪族の加茂氏が居住し、鴨氏が原から鴨子が原に転じたという。

### 甲南台

甲南は六甲山の南の意味。昭和43年に六甲から南に続く山地の端に住宅地が開発され、業者によって名付けられた。

### 甲南町

本来、六甲山の南だが、旧田中村を中心とする一帯で、近くにも甲南女子学園があり、北に甲南大学があって、国道電車があっころ甲南学園前駐車場があり、その甲南が町名になった。

### 向洋町 (中・西・東)

六甲アイランドの埋立にともなって海に向うという意味で、昭和50年～60年に付けられた。

### 住吉台

旧住吉村の背山、字大谷・小峰ケ原・落合・荒神山の高台一帯に開発された住宅地に、昭和52年につけられた町名。

### 住吉 (浜町・東町・本町・南町・宮町・山手)

旧住吉村は六甲山頂部から灘の浜までの大きな村で、一村で明治22年の市町村制施行に際して一行政村を形成した。すでに律令時代に摂津国菟原郡内の郷(里)名として現れる。早くから祀られていた本住吉神社にちなむ地名である。

### 田中

灘地方の平地の中央か。近世の村名で、住吉川の東方。西国街道に面して片側に民家が並んでいたため、江戸時代には片町とも記されている。

## 深江（北町・浜町・本町・南町）

もと高橋川の川口に深い入江があったのだろう。戦国中期、細川氏の分裂抗争時に地名とし現れ、近世には村名になった。

## 本庄

中世の荘（庄）園。芦屋庄の中心か。この一画にあった近世のしやうじ小路村は、まれに庄司村と記されており、庄司つまり庄園管理者の居住地かも。近世には本庄九カ村と称して、三条・津知・森・深江・青木・中野・小路・北畑・田辺の村々が連携していた。明治22年の市町村制では、このうち深江・青木、西方の西青木の3村が本庄村という行政村を形成した。

## 御影（中町・浜町・本町・山手）

地名起源の沢ノ井の水鏡、鏡の語源である影見（転じて、みかげ）、産土の天神社神宝の銅塊などから、古墳時代に青銅器・鏡などの製作にかかわる豪族がいたと考えられる。律令制のもとでは摂津国菟原郡かがみ覚美郷と記された。御影の地名は『平家物語』、『太平記』、『信長公記』などに浜辺の戦略地として記された。近世には村名となり、市町村制施行に際して、御影・郡家・石屋・東明・平野の村々が合併して御影町を結成した。

## 御影石町

江戸時代の石屋村についた町名。北方の山地から切り出された六甲の花崗岩がこの地（石屋川の土手など）で加工され、御影の浜から広く各地に売り出された。当地の良質な石材から、花崗岩一般が御影石と呼ばれるようになった。

## 御影郡家

郡家は律令制下の郡役所所在地にみられる地名で、ここは夙川から旧生田川に至る菟原郡の役所があった。近くに大きな官庁の敷地内を示すむら室ノ内や、国の倉庫の所在地を示すおおくら大蔵などの字名もあった。東灘区民ホールの「うはらホール」はこの郡名に由来する。

## 御影塚町

江戸時代のとうみょう東明村の地域。前方後円墳のおとめづか処女塚のある所から塚町と名づけられた。

## 本山（北町・中町・南町）

明治22年の町村制施行に際して、ほんじやう本庄九カ村の内の森・中野・小路・北畑・田辺の村々は西方の田中・岡本・野寄の3村と合併して行政村を作った。田中・岡本・野寄の3村は中世以来の山路庄に属していたため、本庄と山路庄の村々ということから、頭文字を採って本山村という行政村を名乗った。

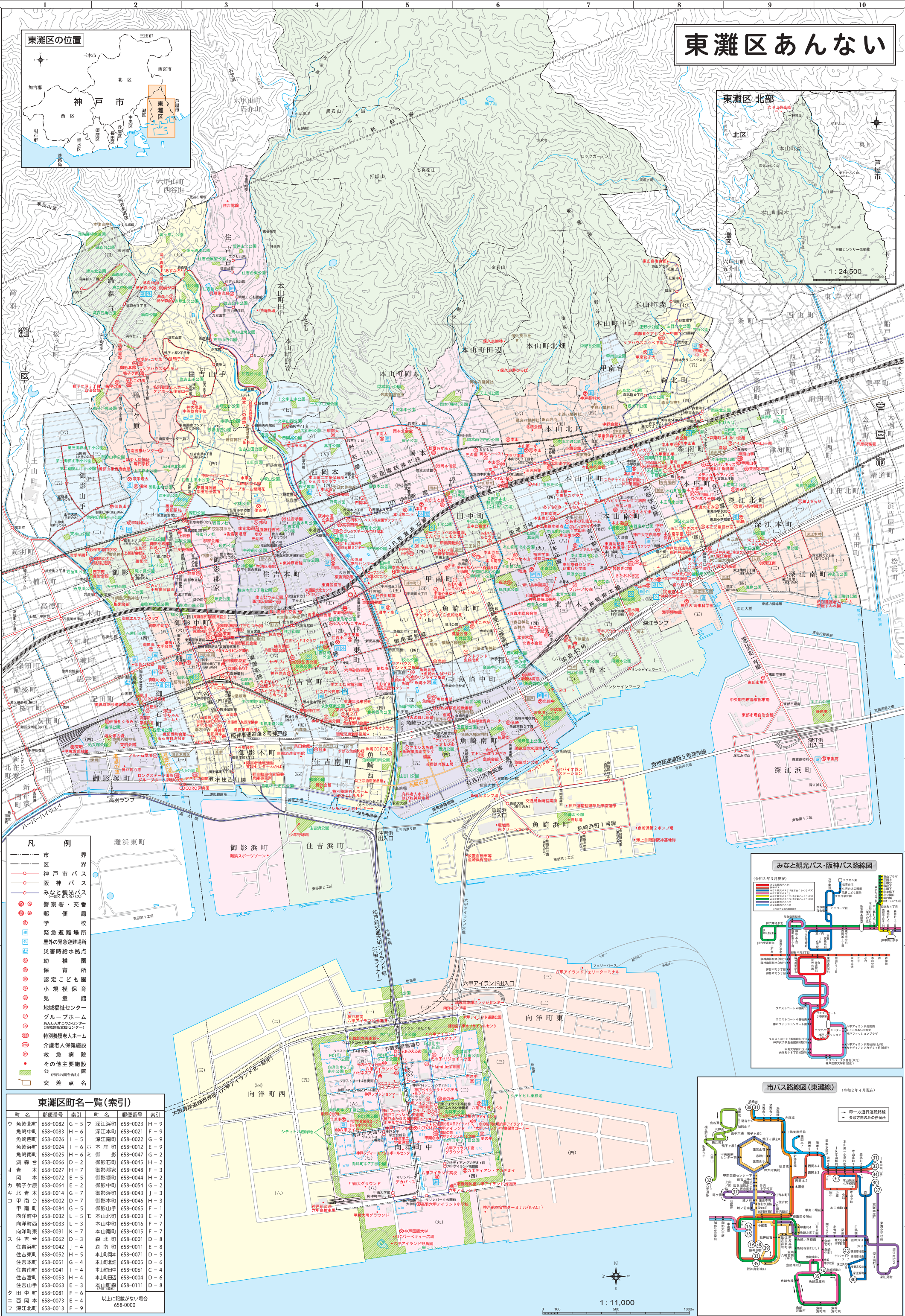
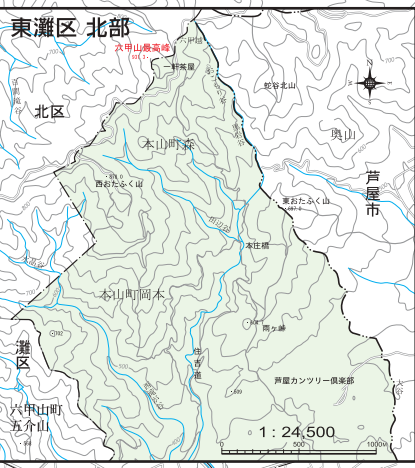
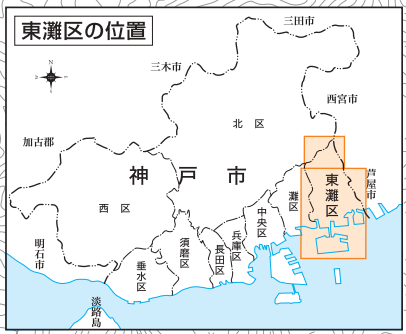
## 森（北町・南町）

近世以来の村名による。この地の稻荷神社は、保久良神社と共に本庄九カ村の総鎮守だったが、明治政府の政策で、森・深江・青木のみを鎮守となり、保久良神社と氏子地を分割した。

〈園田学園女子大学名誉教授 田辺 真人〉

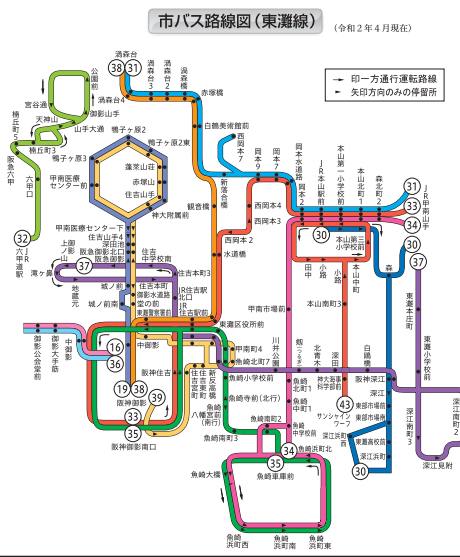
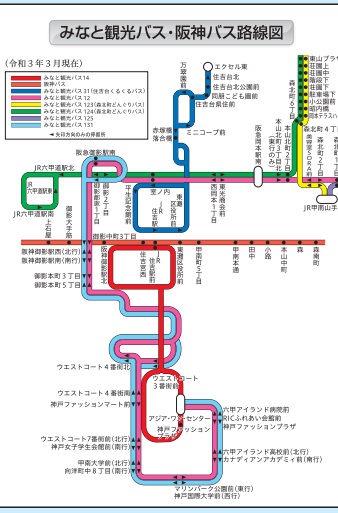


# 東灘区あんない



- 凡例
- 市界
- 区界
- 神戸市バス
- 阪神バス
- みなと観光バス
- 警察署・交番
- 郵便局
- 学校
- 緊急避難場所
- 屋外の緊急避難場所
- 災害時給水拠点
- 幼稚園
- 保育所
- 認定こども園
- 小規模保育
- 児童館
- 地域福祉センター
- グループホーム
- あんしん子育てセンター
- 特別養護老人ホーム
- 介護老人保健施設
- 救急病院
- その他主要施設
- 交差点名

町名	郵便番号	索引	町名	郵便番号	索引
魚崎北町	658-0082	G-5	深江浜町	658-0023	H-9
魚崎中町	658-0083	H-6	深江本町	658-0021	F-9
魚崎西町	658-0026	I-5	深江南町	658-0022	G-9
魚崎浜町	658-0024	I-6	本庄町	658-0012	E-9
魚崎南町	658-0025	H-6	御影	658-0047	G-2
鴻森台	658-0066	D-2	御影石町	658-0045	H-2
オ南本	658-0027	H-7	御影都家	658-0048	F-3
青木	658-0072	E-5	御影塚町	658-0044	H-2
カ鴨子ヶ原	658-0064	E-2	御影中町	658-0054	G-2
北青木	658-0014	G-7	御影浜町	658-0043	J-3
コ甲南町	658-0002	D-7	御影本町	658-0046	H-3
甲南町	658-0084	G-5	御影山手	658-0065	F-1
向洋町中	658-0032	L-5	モ本北町	658-0003	E-7
向洋町西	658-0033	L-3	本山中町	658-0016	F-7
向洋町東	658-0031	K-7	本山町	658-0015	F-7
ス住吉台	658-0062	D-3	森北町	658-0011	D-8
住吉浜町	658-0042	J-4	森南町	658-0011	D-8
住吉東町	658-0052	H-5	本山町本	658-0071	D-5
住吉本町	658-0051	G-4	本山町北畑	658-0005	D-6
住吉南町	658-0041	I-4	本山町中	658-0061	C-4
住吉宮町	658-0053	H-4	本山町田辺	658-0004	D-6
住吉山手	658-0063	E-3	本山町森	658-0111	D-8
田中町	658-0081	F-6			
ニ西岡本	658-0073	E-4			
深江北町	658-0013	F-9			





区制70周年記念誌 東灘のあゆみ

発

行

東灘区役所

令和3年3月発行

神戸市広報印刷物登録

令和2年度第675号（広報印刷物規格A-6類）

〒650-8570 神戸市東灘区住吉東町5丁目2番1号

TEL. 078-841-4131

制作・編集・印刷

菱三印刷株式会社

〒652-0803 神戸市兵庫区大開通2丁目2番11号

TEL. 078-576-3961



